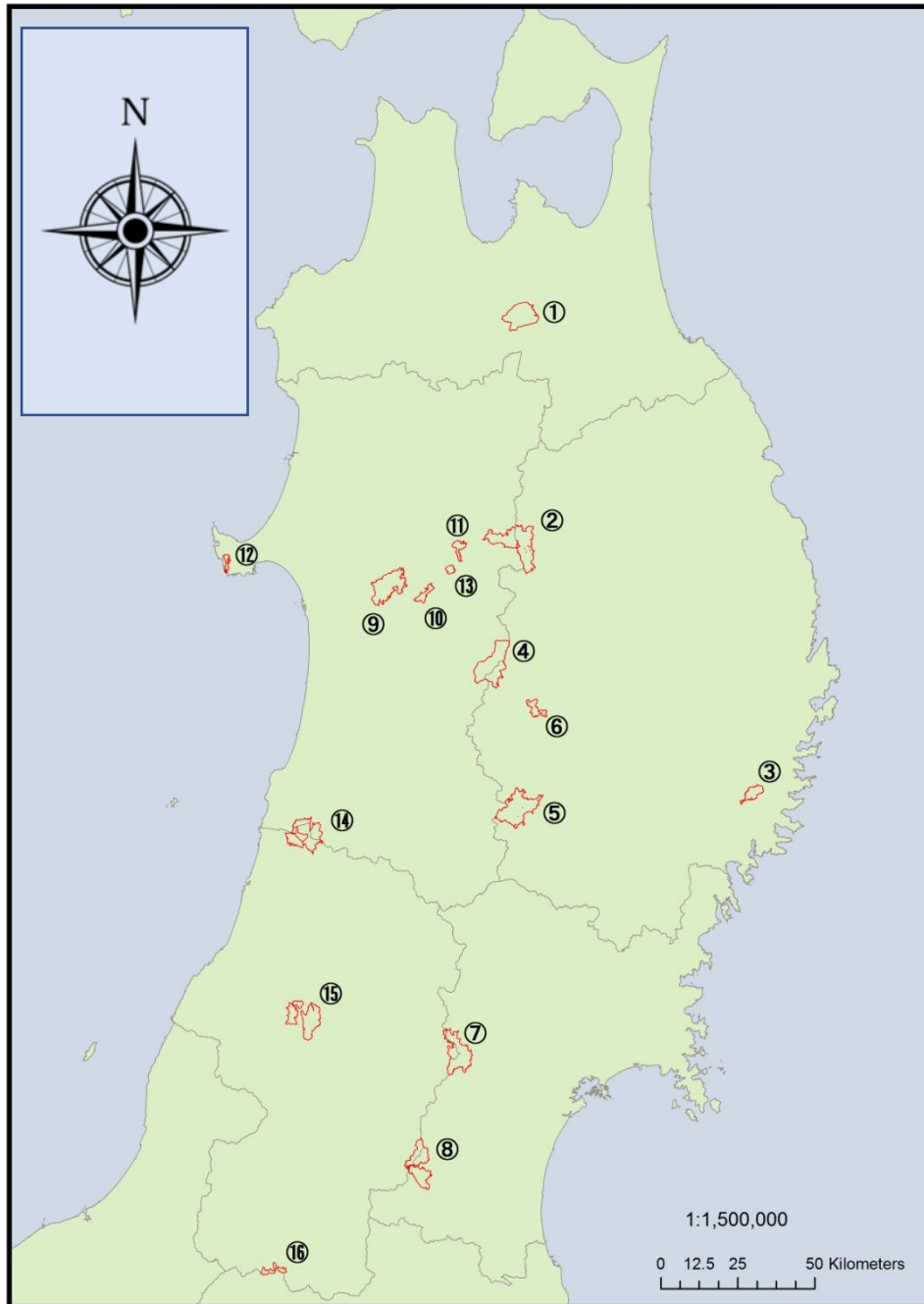


生物群集保護林の 地帯区分について

東北森林管理局の生物群集保護林



- ① 八甲田山
- ② 八幡平
- ③ 五葉山
- ④ 和賀岳
- ⑤ 焼石岳
- ⑥ 毒ヶ森
- ⑦ 船形山（御所山）
- ⑧ 蔵王
- ⑨ 太平山周辺
- ⑩ 番鳥森・大仏岳
- ⑪ 奥羽山脈北西部
- ⑫ 男鹿半島海岸植生
- ⑬ 葡萄森
- ⑭ 鳥海山
- ⑮ 月山
- ⑯ 柵峰・飯森山

生物群集保護林における地帯区分の設定について

○ 保護林設定管理要領（平成27年改正林野庁長官通知 抜粋）

2（3）地帯区分

生物群集保護林は、原則として一の区域について保存地区及び保全利用地区に区分するものとする。ただし、地帯区分を行う合理的な理由が見いだせない場合は、この限りではない。

- ア 保存地区は、自然状態が十分保存された天然林を主体とする区域とする。
- イ 保全利用地区は、保存地区に外部からの影響が直接及ばないよう緩衝の役割を果たすために必要と考えられる広がりを持つ、原則として保存地区と同質の天然林を主体とする区域とし、天然林と一体的に保護・管理することが相応な人工林を含めることができるものとする。

生物群集保護林における地帯区分の設定について

○ 保護林設定管理要領

(4) 取扱いの方針

生物群集保護林の保存地区及び保全利用地区の取扱いは次のとおりとする。

ア 保存地区 原則として人為を加えずに自然の推移に委ねるものとする。

イ 保全利用地区

(ア) 天然林については保存地区と同様とし、人工林については育成複層林施業等を行うことができるものとして、将来的には天然林への移行を図るものとする。

(イ) 必要に応じて草地、湿地、高山帯、岩石地等の特異な環境を保護・管理することができるものとする。

生物群集保護林の地帯区分の設定に係る検討

○地帯区分の考え方（平成29年度 第2回委員会）

保護林区域は変更しないことを前提とし、植生図等をもって検討する。

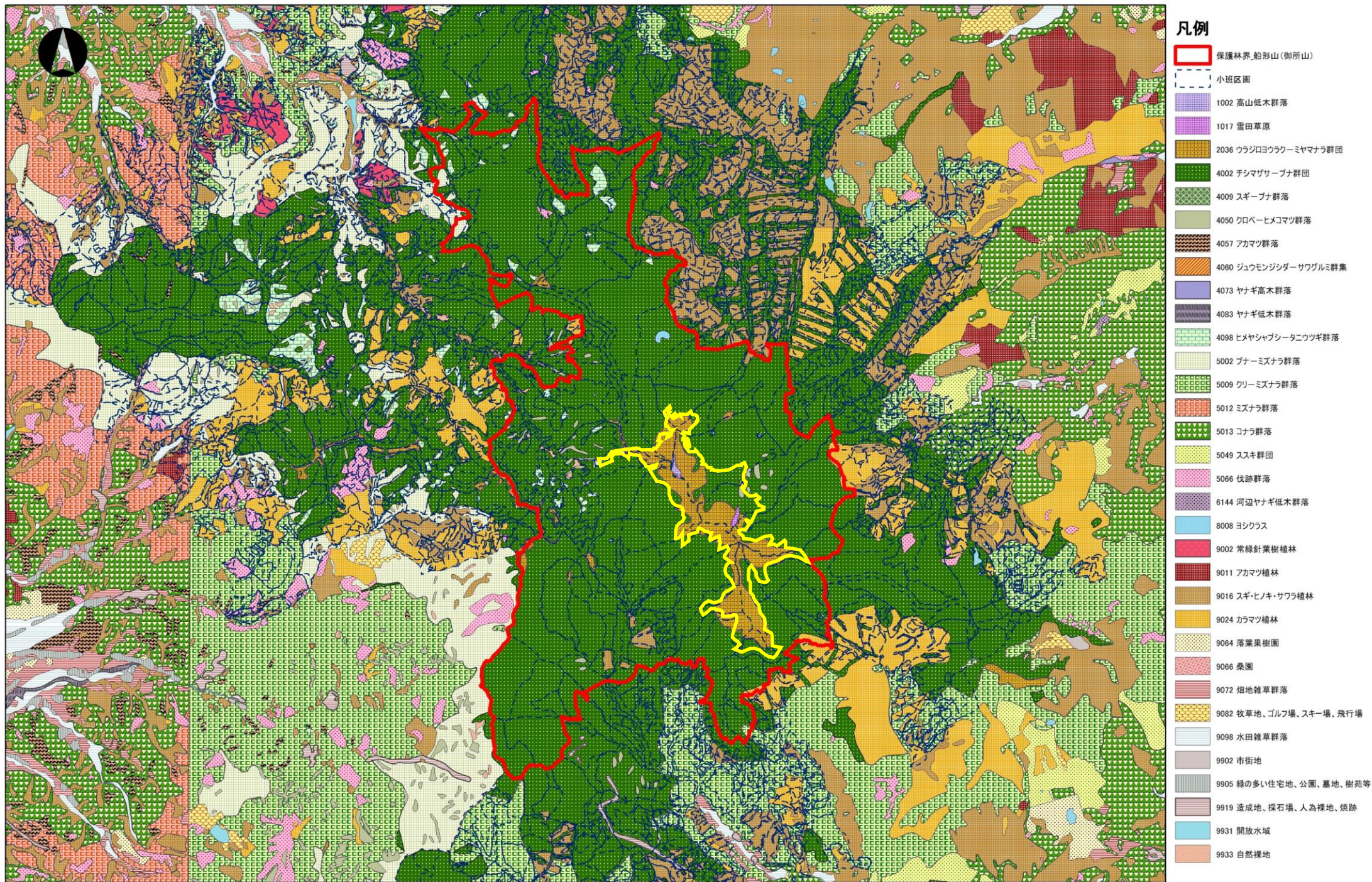
★ポイント

- (1) 保護林内に周囲とは異なる地域固有の植生がまとまって存在する区域を保存地区とする
- (2) 自然環境保全地域は保存地区とする
- (3) 地帯区分にあたっては、既存の林小班を活用し小班分割する場合は等高線に沿って分割する



垂直分布が明瞭でかつ等高線に沿って小班界がある
「和賀岳」「船形山（御所山）」の地帯区分を平成29～30年度に実施

船形山（御所山）生物群集保護林



出典:「自然環境保全基礎調査 植生自然度調査(植生調査)」(環境省生物多様性センター)
 当植生図は、植生調査(1/5万)第2~5回「宮城県」、「山形県」GISデータ(環境省生物多様性センター)を使用し、東北森林管理局が作成・加工したものである。(http://gis.biodic.go.jp/webgis/index.html)

1:75,000



東北森林管理局の生物群集保護林

番号	名称	面積 (ha)	特徴	【森林計画区】 森林管理(支)署
1	はっこうださん 八甲田山	6,410	山地帯にブナ、中腹にアオモリドマツ(オオシラビソ)、山頂付近にはハイマツと地域の特徴的な垂直分布。また大小様々な湿原が分布。	【津軽、東青、三八上北】 津軽署、青森署、三八上北署
2	はちまんたい 八幡平	10,235	ブナ、アオモリドマツ、コメツガと地域に特徴的な垂直分布。高層湿原が散在し、火山地形も見られる。	【馬淵川上流、米代川、雄物川】 岩手北部署、米代東部署、秋田署
3	ごようざん 五葉山	1,951	コメツガとヒバ(ヒノキアスナロ)を主とする天然林。また、固有種ゴヨウザンヨウラクなどの貴重な植物が生育。	【大槌・気仙川】 三陸中部署
4	わがだけ 和賀岳	8,955	山地帯ではブナやスギ天然林、標高1,000m程度からの亜高山性のミヤマナラ、高山帯のハイマツ等に至るまでの垂直分布。一部は和賀岳自然環境保全地域(特別地区)に指定。	【北上川中流、雄物川】 岩手南部署、秋田署
5	やけいしだけ 焼石岳	8,768	ブナ、ミヤマナラ、ハイマツの垂直分布。高山帯にはカンチスゲ、エゾノミクリゼキシヨウなど、中間湿原にはヒメカイウなどの希少な植物が生育。	【北上川中流】 岩手南部署
6	ぶすがもり 毒ヶ森	1,639	日本海型ブナ・チシマザサ群落为主体。フガクスズムシ、トガヒゴタイ、コアニチドリなどの希少な植物が生育。	【北上川中流】 岩手南部署
7	ふながたやま(ごしょざん) 船形山(御所山)	7,150	日本海型ブナ林の特徴を持ち、亜高山性の針葉樹林を見ず、ミヤマナラ群落が成立。	【宮城北部、宮城南、最上村山】 宮城北部署、仙台署、山形署
8	ざおう 蔵王	6,621	山地帯のブナの分布が終わる1,350m付近から亜高山帯のアオモリドマツへ移行。高山帯は高山低木群落に加え、火山荒原、雪田植生、硫気孔原植生などが分布。	【宮城南、最上村山】 仙台署、山形署
9	たいへいざんしゅうへん 太平山周辺	7,223	山地帯には高齢級のブナ林が分布。尾根筋にはキタゴヨウ・クロベ林が分布。オサバグサ、コアニチドリなど希少な植物が生育。	【米代川、雄物川】 上小阿仁支署、秋田署
10	ばんどりもり・だいぶつだけ 番鳥森・大仏岳	1,239	番鳥森周辺のブナ・ミズナラ林、大仏岳山頂付近の風衝地の岩壁植生が特徴的。一部、番鳥森自然環境保全地域(特別地区)に指定。	【米代川、雄物川】 上小阿仁支署、秋田署
11	おうさんみやくほくせいぶ 奥羽山脈北西部	1,191	標高800~1,000m付近にスギ-ブナ群落がまとまって分布。また、キタゴヨウ、クロベ、中間湿原等がモザイク状に分布。	【米代川、雄物川】 上小阿仁支署、秋田署
12	おがはんと かいがんしよくせい 男鹿半島海岸植生	655	ミズナラ、イタヤ、カシワなどによる海岸風衝林が分布。ケヤキ林分は急斜面下部の溪谷沿いに自生し特徴的。また、潮害に弱いとされる天然スギが自生。	【米代川】 米代西部署
13	ぶどうもり 葡萄森	579	典型的な日本海側多雪地帯の原生的ブナ林。	【雄物川】 秋田署
14	ちょうかいさん 鳥海山	7,241	典型的な多雪山地帯の垂直分布で亜高山性の針葉樹林を見ない。ブナ、ミヤマナラ、雪田植物群落、湿性草原等が分布。チョウカイフスマなどの希少な植物が生育。	【子吉川、庄内】 由利署、庄内署
15	がっさん 月山	6,822	典型的な多雪山地帯の垂直分布で亜高山性の針葉樹林を見ない。東斜面では湿原・雪田が点在し、固有種ガッサンチドリなど高山植物も豊富。	【庄内、最上村山】 庄内署、最上支署
16	つがみね・いいもりやま 桐峰・飯森山	1,043	原生的なブナ天然林。また、分布限界(西端)のアオモリドマツが分布。	【置賜】 置賜署

※青色欄：地帯区分実施済み

事例の検討

例① 八甲田山生物群集保護林

：保護林全域に地域固有の垂直分布を示す

例② 五葉山生物群集保護林

：保護対象の植物群落の成立する範囲が保護林区域の大半を占める

例③ 焼石岳生物群集保護林

：保護林内に地域固有の植生のまとまりが見られる

例④ 葡萄森生物群集保護林

：地域の自然を代表する植物群落の範囲を保護林に指定

例⑤ 男鹿半島海岸植生生物群集保護林

：地域固有の植生のまとまりの中の国有林部分を保護林に指定

八甲田山生物群集保護林

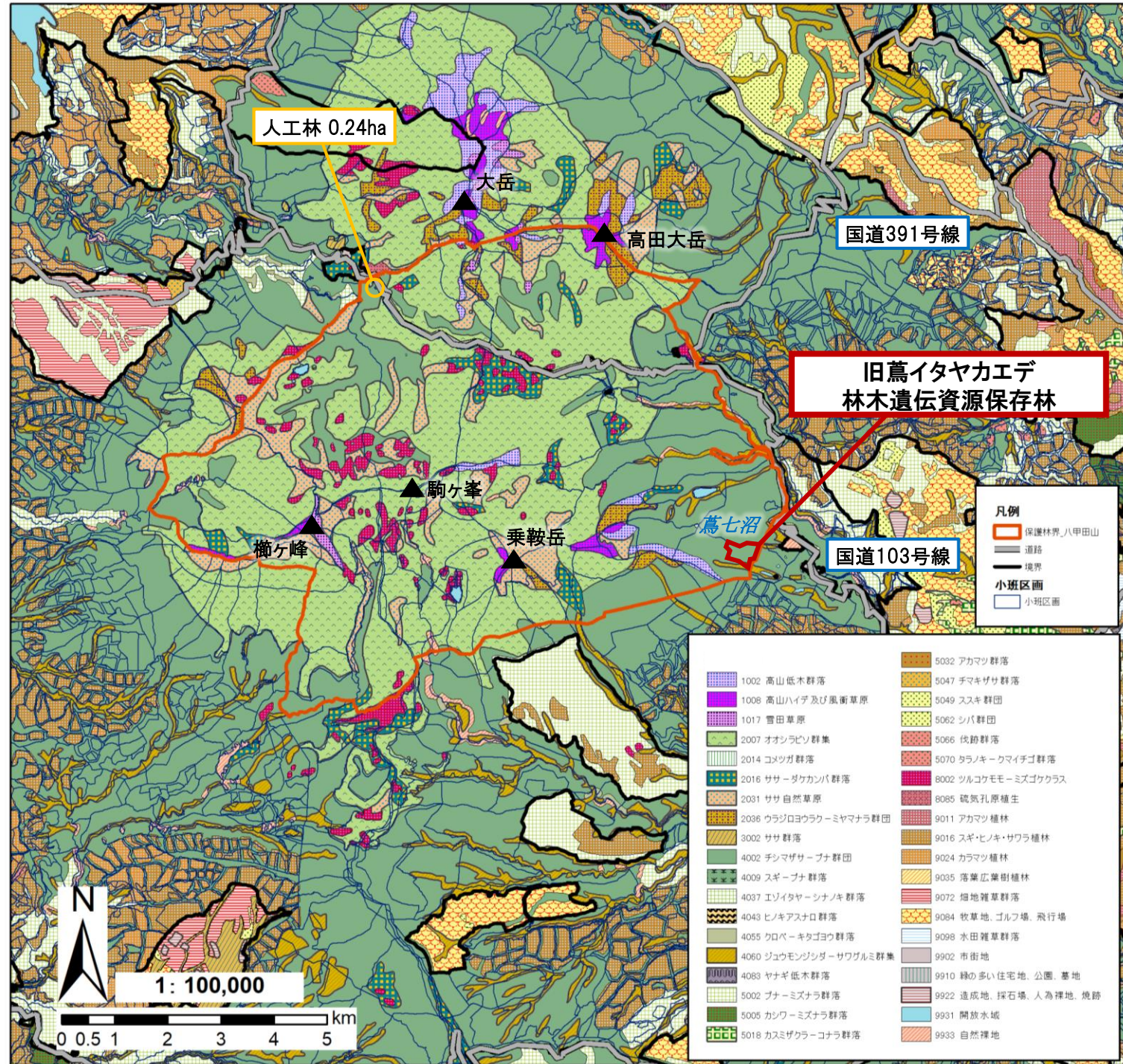
津軽署、青森署、三八上北署
6,409.70 ha

保護林の設定目的等

奥羽山脈の北端にある八甲田連峰は、「道南下北津軽型」、「東北太平洋型」及び「東北日本海型」の接点となる地域に位置し、自然状態が十分に保存された天然林を主体とする森林が広く分布し、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する区域であることから設定した。

なお、本保護林は、この区域の森林生態系に係る生物遺伝資源を自然生態系内に広範に保存し、遺伝資源の今後の利用に資することを目的として設定された「八甲田山森林生物遺伝資源保存林」から移行したものである。

→地帯区分の設定になじまないと考えられる



五葉山生物群集保護林

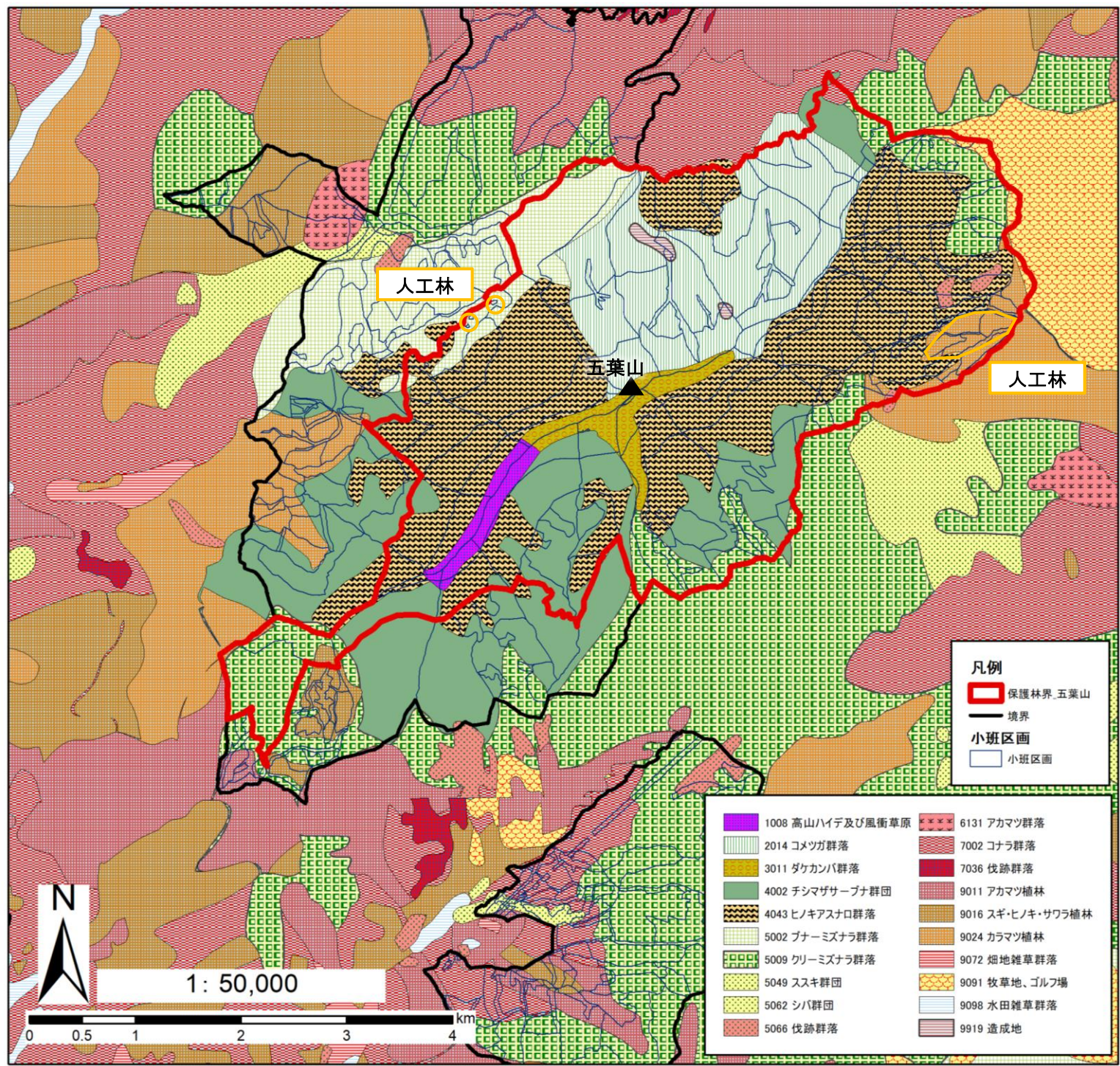
三陸中部署
1,950.79 ha

保護林の設定目的等

岩手県大船渡市、釜石市及び住田町にまたがる五葉山について、コメツガとヒノキアスナロ（ヒバ）を主とする天然林及び五葉山の固有種であるゴヨウザンヨウラク等貴重な植物群落のみならず、繁殖又は生息する動物にも留意し、原則として人手を加えず自然の推移に委ね、学術等に寄与することを目的とする。

→地帯区分の設定になじまないと考えられる

※但し、人工林が保護林に含まれるので林相等を把握し、その取扱いを決める



焼石岳生物群集保護林

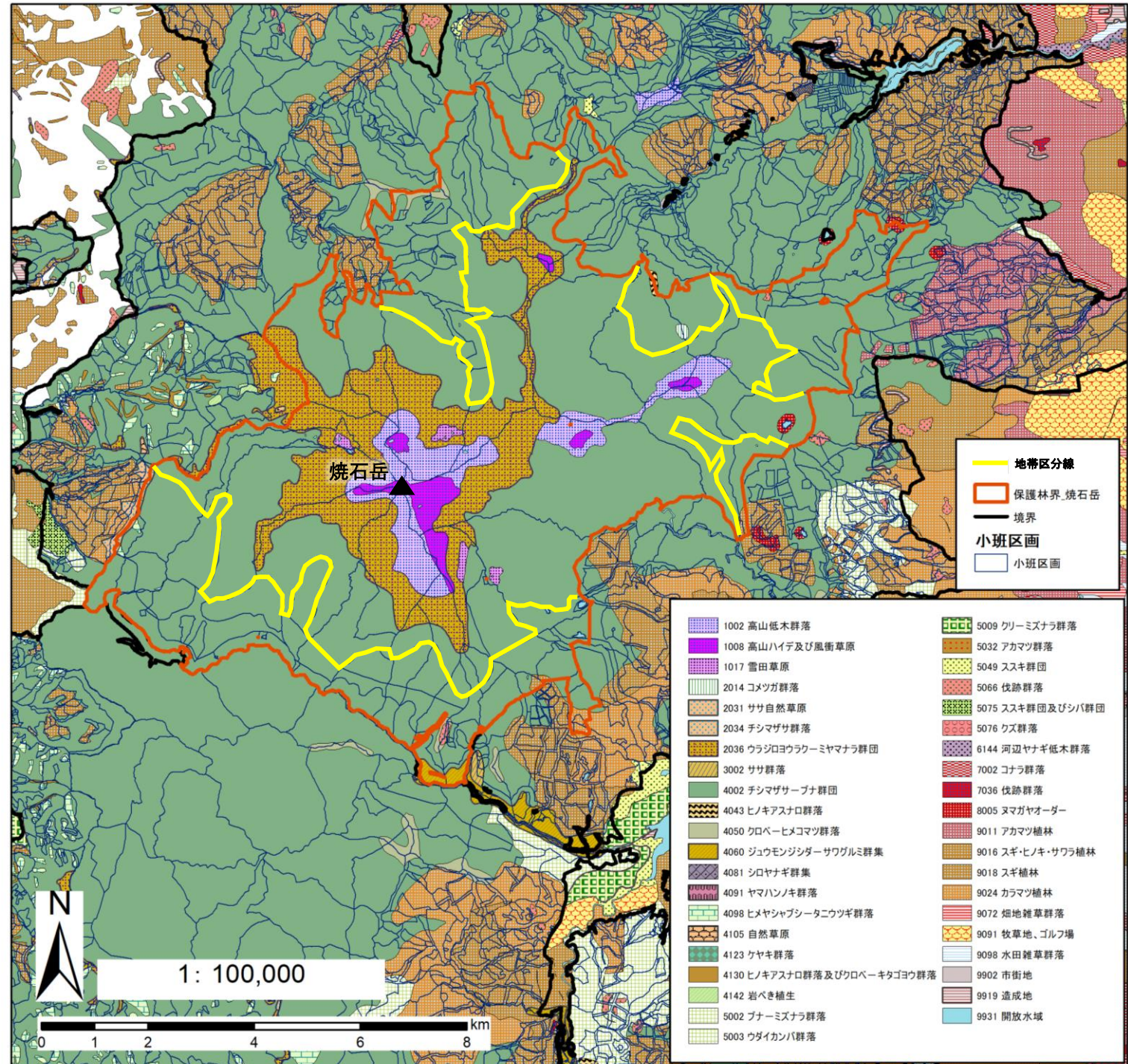
岩手南部署
8,768.22 ha

保護林の設定目的等

高山帯は「ハイマツ・コケモモ型」を主体とした植物群落からなり、貴重種としてはリシリシノブ、カンチスゲ（南限・国内唯一）、エゾノミクリゼキシヨウ（南限・本州唯一）、タカネセンブリ（南限）等がある。亜高山帯には「ミヤマナラチシマザサ型」、山地帯には「ブナチシマザサ型」を主体として、乾性尾根部に「キタゴヨウ林」、湿性沢部に「トチ・カツラーユキツバキ・オシダ型」の群落組成がみられ、ヒメカイウ（南限）の群落のある中間湿原もある。

このような多様な植物群落を一体のものとして保存するとともに、奥羽山脈縦断自然樹林帯の核として森林生態系の効果的な保全に資するために設定する。

→保全利用地区の設定が考えられる



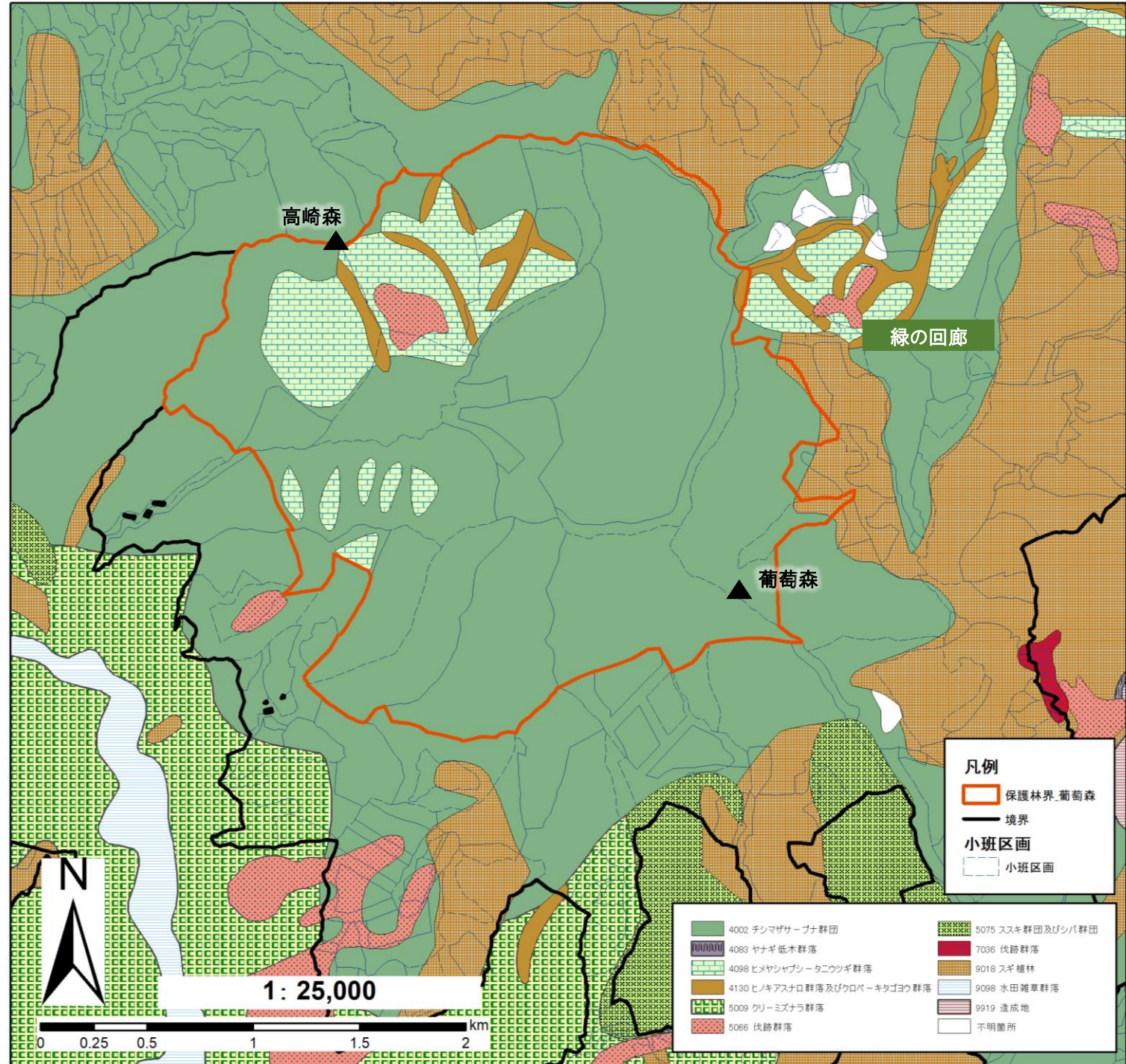
葡萄森生物群集保護林

秋田署
578.57 ha

保護林の設定目的等

典型的な日本海側多雪地帯のブナ林が、葡萄森中腹南西斜面等に発達しており、これを保存するために設定する。

→地帯区分の設定になじまないと考えられる



男鹿半島海岸植生生物群集保護林

米代西部署
655.08 ha

保護林の設定目的等

男鹿半島の日本海側の西斜面に位置し、地形は急峻な岩石地が多く、海風を直接受ける地形環境にある。標高150m付近から山頂部までは、ブナ林が発達しているが、裏日本ブナ帯にみられるタムシバ、マルバマンサクを欠くことが本地域の特色。

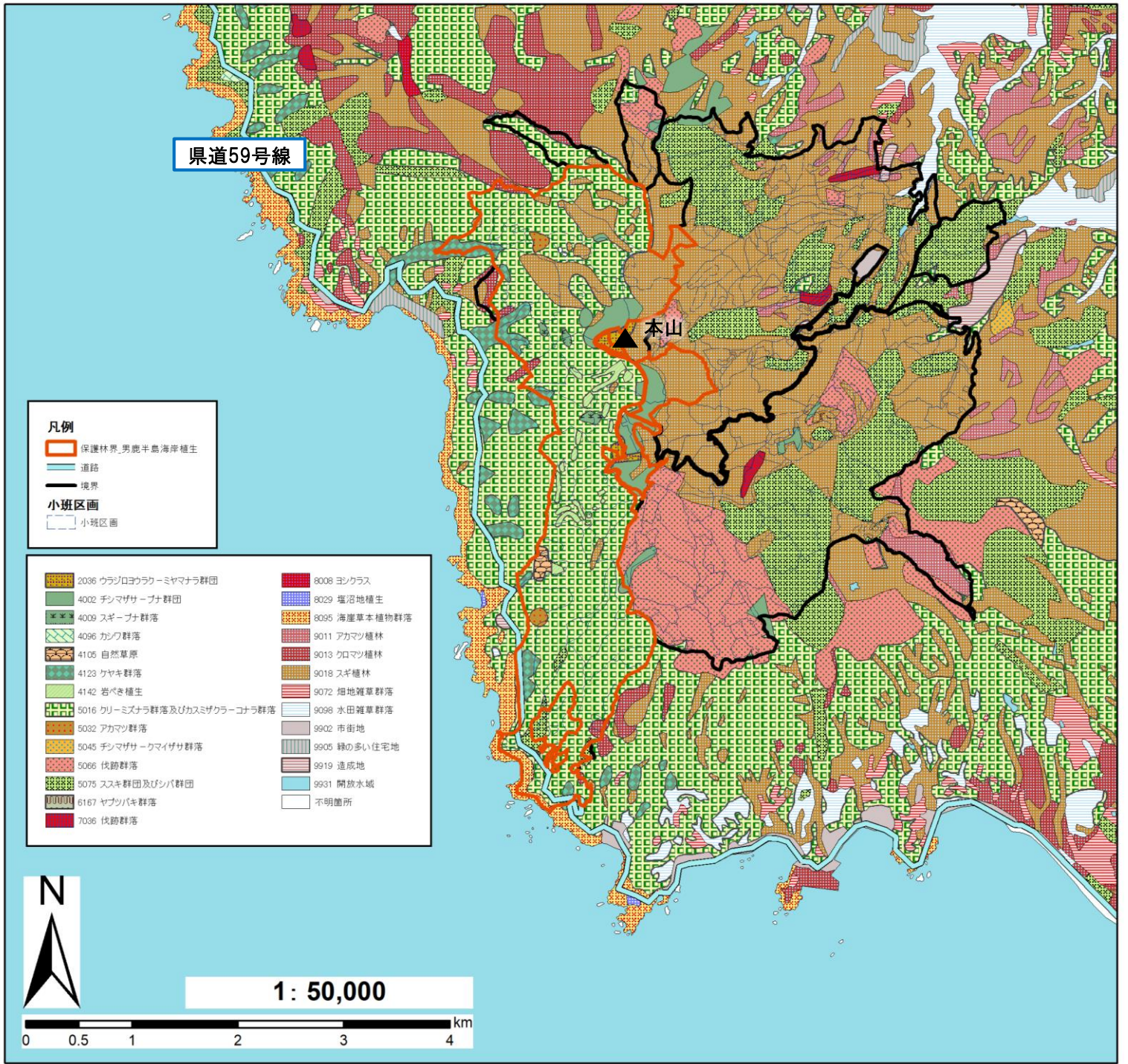
海岸の風衝地には、ミズナラ、イタヤ、カシワ林など北地海岸風衝林がある。標高600m付近の西北部斜面の崩壊地には、ナナカマド、ツノハシバミ、ハクサンシャクナゲ等の低木林に囲まれてタカネナデシコ、ヒメアカバナ、トウゲブキなどの亜高山性の植物が見られる。

また、一般的に潮害に弱いとされている秋田スギが日本海からの潮風を浴び季節風に耐え自生しており、非常に珍しく貴重である。

さらに、急斜面下部の渓谷沿いの特徴的なケヤキの林分があり、古くは学術参考保護林としてケヤキの遺伝資源を域内保存している。

このような多様な植物群落を一体のものとして保存することを目的とする。

→地帯区分の設定になじまないと考えられる



事例の検討

○保全利用地区の設定が考えられる生物群集保護林

「焼石岳」

○地帯区分の設定になじまない生物群集保護林

「八甲田山」

「五葉山」

「葡萄森」

「男鹿半島海岸植生」

地帯区分の検討スケジュール（案）

県	森林計画区	予備編成年度				検討対象
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
青 森	津軽		○			
	東青	○				八甲田山
	下北				○	
	三八上北					
岩 手	馬淵川上流				○	八幡平
	久慈・閉伊川		○			焼石岳、毒ヶ森
	大槌・気仙川					五葉山（R4検討）
	北上川上流	○				
	北上川中流			○		
宮 城	宮城北部				○	
	宮城南部	○				蔵王
秋 田	米代川			○		男鹿半島海岸植生（R2検討）、 奥羽山脈北西部、番鳥森・大仏岳、太平山周辺
	雄物川					葡萄森（R4検討）
	子吉川	○				鳥海山
山 形	庄内			○		月山
	最上村山					
	置賜		○			姆峰・飯森山